

まとめ

栃木県と群馬県は2年目、宮城県・新潟県・兵庫県・長崎県は1年目の取組みであるが、生徒の建設業への関心は徐々に高まりをみせている。現場見学や企業実習等の経験は、積極的な観察力や的確な疑問を投げかけられる質問力を向上させ、その延長に学校で学習に前向きに取り組む姿勢を醸成している。

このような生徒の職業観や学習意欲の変化は、今後、建設業への入職率の向上や資格取得を希望する生徒の増加につながるものといえる。実際に、1～2年の期間内においても、就職者数、資格取得希望者数は増加しており、なかには受講生徒が実習の受入れ先の企業に就職するケースも現れている。

■ 就職者数が増加

長崎県では、モデル校の土木系学科3年生のうち、10日間以上企業実習に参加した生徒の建設業への就職率が63.6%と3日間実習に参加した生徒の47.9%に比べ、高い値を示した。全卒業生に対する建設業就職率も前年比5.8%増加している。栃木県でも同様に、建設関連業への就職率が、前年比約11%の増加傾向が見られた。

新潟県では、実習に参加した生徒13名のうち、建築施工関連企業への就職者と建設系大学・専門学校への進学者が10名に上り、進学者のうち建築大工を志望するなど本事業への参加が将来の進路決定にも影響を及ぼしている。

栃木県参加高等学校(土木・建築・建設工学科)の就職者数と建設関連企業への就職者数

年度	就職者数	就職者数(建設関連業)	就職率
21年度	85人	31人	36.5%
20年度	109人	28人	25.7%

■ 資格取得を希望する生徒が増加

技能士(建築大工)、測量士、建築・土木施工管理技術検定などの資格受験者数や合格者が、各地域で大幅に増加している。なかでも、長崎県大村工業高等学校・鹿町工業高等学校のように、2級土木施工管理技術検定の受験対策プログラムを実施した結果、合格率が前年比30%増と顕著な成果に結びついた地域も見られる。

長崎県参加高等学校における2級土木施工管理技術検定の受験者・合格者数

	年度	受験者数	合格者数	合格率
大村工業	21年度	40人	22人	55.0%
	20年度	38人	9人	23.7%
鹿町工業	21年度	38人	21人	55.3%
	20年度	38人	9人	23.7%

■ 企業実習から入職を実現

実習の受入れ先企業に、参加した生徒が就職するケースも生まれている。宮城県の場合、受入れ企業2社が実習に参加した生徒のうち3名を採用した。現場での態度や姿勢等が判断の決め手のようだが、採用側にとっても、人材を確保するための有効な機会になっている。